

第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/24】

この試合のプレー集計

男子Aリーグ戦

京都府選抜 13

5	—	0
2	—	0
1	—	0
5	—	0

0 宮城県選抜

PSO

太田 一誠

審判：

坂井 奎太

京都府選抜	26	SH数	9	宮城県選抜
	5	速攻数	0	
	17	ST・SB	7	
	6	SH・P誘発アシスト	0	
	100%	GK阻止率	41%	
	3	EX反則数	0	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

両チーム、本日2試合目。京都の初戦は、ディフェンスに課題を残しただけに、どこまで修正できているか。対する宮城は、戦力的には劣勢なので、少しでも動き回ってチャンスをつかむ水球ができるかどうか。

【1P】

水球に必要な最低限の個人技能に大きな開きがあり、宮城の選手たちはボール処理と同時に周囲を見て判断するといった段階で京都の圧力に耐えられない状況が続いた。したがって、攻撃時においてはほとんどボールが回らず、簡単に京都にボールを奪われてのピンチの連続。1ピリオド5分間なので、30秒の攻撃時間を使ってシュートに至る展開であれば、1ピリオドで5本のシュートということになるわけだが、第1ピリオドだけで京都は10本のシュート。そのうち5得点、枠内シュートで宮城GK①長谷川がブロックしたシュートが3本、枠外が2本ということになる。それだけ宮城側は十分な攻撃に至っておらず、ボールを途中で京都に奪取され、そこからシュートを打たれる展開ということに。京都5-0宮城と一方的な展開で、宮城側のシュートは2本にとどまった。

【2P】

試合の場面で急に個人技能が改善することはないが、ボールを持っていない選手が動けば、短いパスをつないでシュートにまでは持ち込める。なかなかそうした展開にまでには改善されないが、京都側の攻撃時に急にミスが増え、その分、大きなピンチの回数が減少した形となった。もちろん京都側のミスを誘発するような宮城側の対応力改善も同時に生じたわけで、前のピリオドほど防戦一方という雰囲気ではなくなった。その結果、京都側のシュートも半減し、5本に抑えることができた。そうなれば、宮城GK⑬佐藤もシュートを防ぐことができ、このピリオドの京都の得点を2点に抑え込むことに成功。攻撃面はまだまだだが、ディフェンス面では京都側にミスが生まれるような展開に持ち込めた。その結果、京都7-0宮城と点差の開きも抑制され、前半を折り返した。

【3P】

京都は選手交代して多くの選手に経験を積みせようとするが、自分たちの攻撃リズムが全く機能せず、自滅状態。シュートも5本にとどまり、そのうち4本は宮城GK①長谷川に止められてしまう状態。したがって、このピリオドは1点しか加点できずに終わってしまった。対する宮城は相手選手がやや非力になってもなかなか前に攻め上がることができず、シュートはたったの1本。つまり、両チームともにゴール前まで攻め上がることもできずに、プールの往復にばかり時間を費やした形。京都8-0宮城で第3ピリオド終了。

【4P】

ミスが目立つ京都だが、さすがに最終ピリオドは少しは改善され、宮城ボールを奪取してシュートにまで持ち込む展開となった。このピリオドは6本をシュートを打って5得点。シュートミスやGKブロックも減った。宮城側もこれまでと違ってシュートにまで攻めることができるようになり、4本のシュートを打つことができたが、そのうちの2本は自チームの失点に直結してしまった。結局、宮城は1点も取ることができず、京都13-0宮城で試合終了。京都は2勝、宮城は2敗というリーグ戦初日となった。